

# 乙 頁

第134号 通巻24巻 第1号

2004年5月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター

Tel・Fax 077-585-4397

〒 524-0212

守山市服部町2250番地

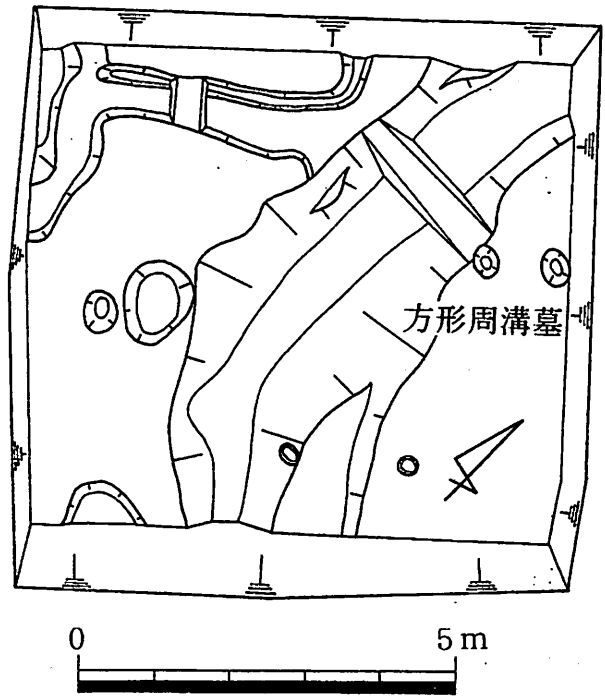
## 終了した調査から

### 伊勢遺跡第93次調査

2月末から3月にかけて、住宅建築に伴い約100㎡を調査しました。その結果、弥生時代後期の落ち込みと古墳時代前期の方形周溝墓<sup>ほうけいしゅうこうぼ</sup>1基が見つかりました。方形周溝墓は西辺の一部が確認されただけで、大部分は調査区の外に埋まっていると考えられます。周溝は幅約2～3.3m、深さ約80cmの規模で、中から多量の土器が出土しました。

今回の調査地の北側でも、同じ時期の方形周溝墓が十数基見つっています。弥生時代後期の集落が衰退・廃絶した後、一帯が墓域<sup>ぼいき</sup>となったことがわかります。

(畑本)



▲伊勢遺跡93次調査遺構平面図

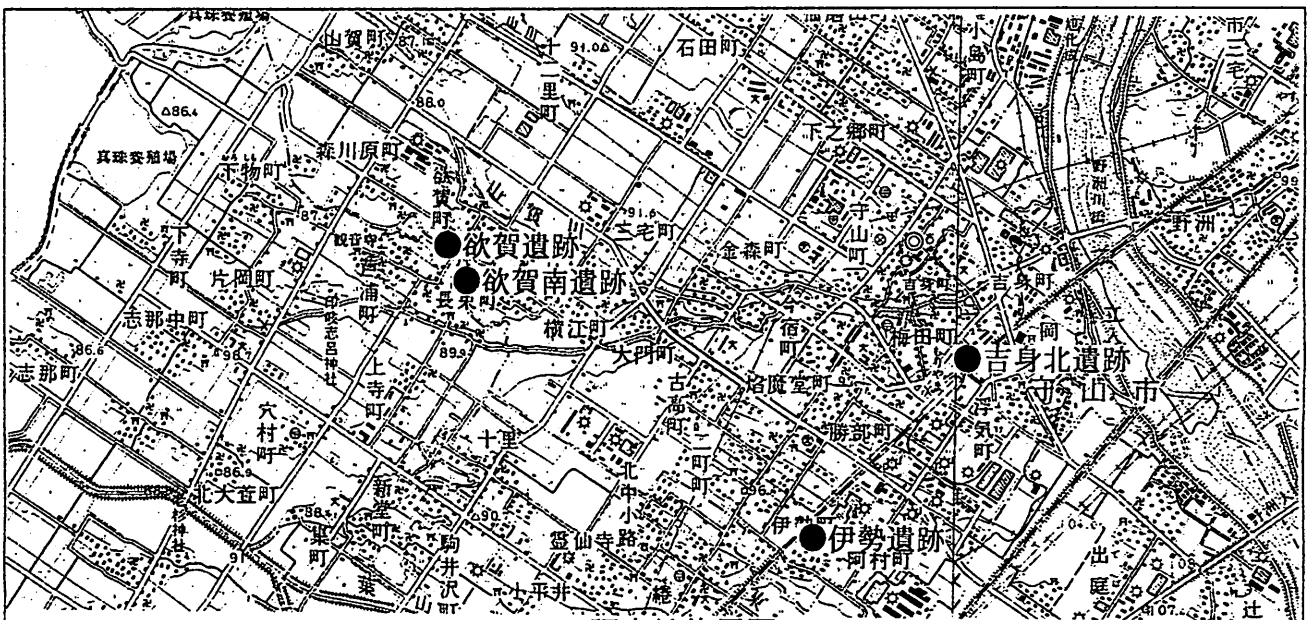
## 調査中

### 吉身北遺跡の調査

4月下旬から梅田町字八ノ坪において、店舗建設に先立つ発掘調査を開始しました。開発地の周辺からは、これまでの調査で古墳時代後期の竪穴住居<sup>ほったてばしらたてもの</sup>や掘立柱建物などが検出されており、一帯に古墳時代の大きな集落があったことがわかっています。今回の調査でも、事前に行った試掘調査によって古墳時代の遺構が検出されており、この地点まで集落が広がることが確認されています。今後調査が進めば、集落の様子が明らかになるのではと期待されます。

(畑本)

この他、昨年度に引き続いて欲賀南遺跡や金森東遺跡の発掘調査が始まる予定です。次回の乙頁で調査成果について報告したいと思います。



▲調査地位置図

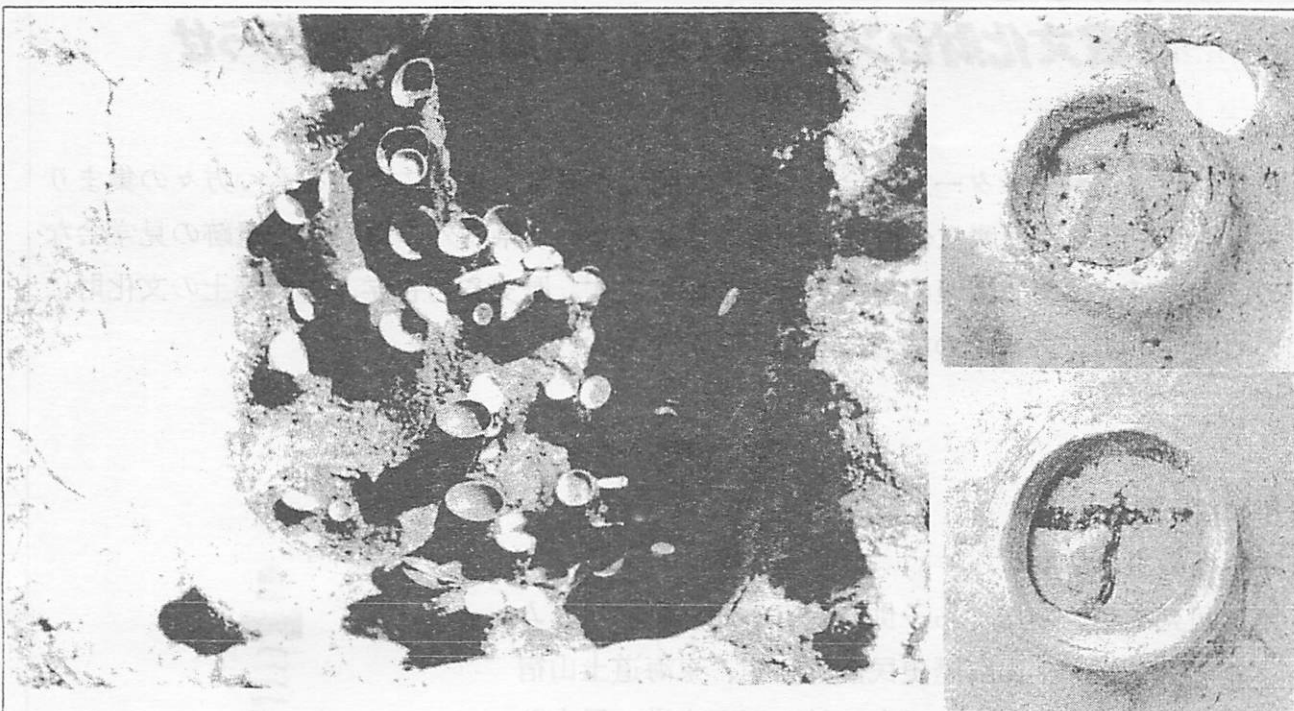
## 欲賀・欲賀南遺跡の整理調査から

区画整理事業に伴い昨年度実施した調査では、<sup>みこがたはにわ</sup>県内でも珍しい巫女形埴輪が発見されるなど、地域の歴史を探るうえで大きな成果をあげることができました。出土した大量の遺物は水洗いされ、現在埋蔵文化財センターに保管されています。今回はそのうち、平安時代後期の溝から出土した多量の土器について報告します。

出土した土器は現状で、土師器の大皿8枚、小皿9枚、山茶碗（東海地方で焼かれた無釉<sup>むゆう</sup>の碗）3個、黑色土器碗40個体以上、土釜数個体があります。このうち、日常食器である皿や碗は多くが完形品（完全な形の土器、または割れていても接合・復元が可能な土器）であり、ほぼ完全な形で溝に捨てられたと考えられます。まだ使える食器をなぜ多量に廃棄したのでしょうか。こうした例は、古代末から中世にかけての市内の遺跡にも時々見られます。<sup>ながつか</sup>長塚遺跡（小島町）では平安時代後期の溝から土師器の大皿・小皿や黑色土器碗、<sup>がきわん</sup>瓦器碗などの完形の土器が多量に出土しています。また、伊勢遺跡では平安時代後期の穴から、炭・灰・焼け土と共に土師器の大皿・小皿や黑色土器碗（「大」、「十」と書かれた<sup>ぼくしよ</sup>墨書土器を含む）などの完形の土器が多量に出土しました。伊勢遺跡の場合、状況から火を用いた儀礼的な共同飲食<sup>きょうどういんしょく</sup>の後、使用された食器が炭や灰と共に穴に埋められたと考えられています。

この時代、ムラの中で祭礼や儀礼に伴う共同飲食が様々な形で行われていたことは、日本各地の文献から知ることができます。遺跡から出土する、「割れていない食器群」はこうしたムラの様子を示しているのかもしれませんが、<sup>ごこほうじょう</sup>おりしも、今は五穀豊穰を願う春祭りが市内各地で行われており、村々のオトナ達が集い飲食する姿があちらこちらで見受けられます。この原型は古代末から中世のムラにあったのではないのでしょうか。

（小島）



▲炭や灰といっしょに出土した多量の土器（伊勢遺跡 28 次調査）

土器の中には、「大」や「十」と墨書された土器が含まれていました。これらの文字は「持ち主や数量を示す」、あるいは「まじないなどに用いられた」などの考えがありますが、その性格はよくわかっていません。

## 歴史入門講座生募集のお知らせ

近江は、古来より交通の要衝として重要な役割を担ってきました。琵琶湖を利用した湖上交通や、北陸道・東山道・東海道などの主要官道とうさんどうを使用した陸路による物資の輸送など、物流の交差点でもありました。今年度の歴史入門講座では、『考古学からみた地域間交流と近江』をテーマに、発掘調査の最前線に立つ研究者を迎えて、列島内の物流や人の往来の結節点として近江が果たした役割について考えてみたいと思います。

### 記

- 1 全体テーマ 『考古学からみた地域間交流と近江』
- 2 講座日程 11月を除く、6月から12月の**第3土曜日**に開講します。（計6回）
- 3 受講料 1,000円
- 4 募集人数 50人
- 5 開催場所 守山市立埋蔵文化財センター 2階会議室
- 6 開講時間 午前9時30分から12時まで
- 7 交通機関 JR守山駅から近江バス（笠原線）

市立埋蔵文化財センター行き終点下車

お申し込み・お問い合わせは守山市立埋蔵文化財センターまで

電話・ファックス 077-585-4397

## 埋蔵文化財センター友の会 会員募集のお知らせ

市立埋蔵文化財センター友の会は、身近な歴史や埋蔵文化財に興味をもつ方々の集まりです。地域の歴史や埋蔵文化財への理解を深めるため、県内外の博物館や遺跡の見学会などの活動のほか、関連情報の提供も行っております。歴史や考古学、また郷土の文化財について興味のある方、この機会にぜひご入会下さい。

記

☆年会費 2,000円

☆昨年度の主な活動

- 第1回見学会 みなくち子供の森自然館、野洲川ダム、土山町歴史民俗資料館、東海道士山宿
- 第2回見学会 北淡海丸子舟の館、西野水道、尾上公民館(葛籠尾崎湖底遺跡)、余呉湖
- 第3回見学会 ヴォーリス記念館、五個荘町歴史博物館、秦荘町歴史資料館、上蚊野古墳群
- 第4回見学会 栗東市歴史民俗資料館(企画展「永源寺の歴史と美術」)、野洲町銅鐸博物館(企画展「吉野ヶ里」)、花緑公園復元民家
- 第5回見学会 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館、(県外研修) 飛鳥資料館、桜井市立埋蔵文化財センター、黒塚古墳展示館
- 第6回見学会 水のめぐみ館アクア琵琶、石山寺、勢田唐橋、栗津貝塚、近江国庁跡



石塔寺石造三重塔(蒲生町)

☆今年度の主な活動予定

年間6回の見学会(滋賀県内5回、県外1回)

※第1回見学会は5月16日(日)に『万葉の里 渡来人の里 蒲生野』と題し、バスで蒲生町妹背の里・木村古墳群・石塔寺、日野町鬼室神社などを見学する予定です。

☆その他特典 各種催物の案内、埋蔵文化財センター機関紙「乙貞」の送付

お申し込み・お問い合わせは守山市立埋蔵文化財センターまで

電話・ファックス 077-585-4397